幼児期の生活と遊びに関する研究

── 幼稚園児の降園後の遊びから「三間がない現象」について ──

窪　　龍　子
実践女子大学人間社会学部
井　狩　芳　子
和泉短期大学児童福祉学科
野　田　　耕
九州共立大学スポーツ学部

Ⅰ．問題と目的

子ども達が戸外で遊ぶことが少なくなったのは、「時間・空間・仲間」の「三間がない」からだといわれてきた。筆者ら（2005、2006）のこれまでの調査においては、物理的に「三間がない」ことが子どもの戸外遊びを奪っているという明らかな結果は得られなかった。「三間」が単に存在するかどうかだけでは、戸外遊びの減少を説明することができなかったのである。社会の変化がどのように子どもの遊びに影響を与え、「三間」はどのように変わっていったのか、さまざまな観点からこの問題を見極めなければならない。

１．子どもの遊び空間の変化

環境建築家の立場から長年にわたり調査と提言を続けている仙田（1998）は、まず遊びの空間には次のような６つの原空間があるという。

(1) 自然スペース（魚とり、虫取り、木登り、土手の滑り降り、洞穴もぐりなどが可能な自然豊かな空間）
(2) オープンスペース（かけっこ、鬼ごっこ、野球などボール遊び、縄跳び、陣取りなどが可能な広い空間）
(3) 道（子ども達の出会いの場であり、遊びの拠点を連携するネットワークの遊び空間）
(4) アナーキースペース（廃材置き場、工事場など混乱に満ちた空間）
(5) アジトスペース（子ども達だけの秘密基地）
(6) 遊具スペース（児童公園）

仙田は、この中で重要なのは自然スペース、オープンスペース、道であり、とくに「道」は、路地として昔からの遊び場であり、１人で遠くへ遊びに行くことができない小さな子ども達に

とって、自宅前の道は重要な空間であると強調している。今日、子ども達はこのような遊びの空間をほとんど手にすることができなくなってしまっていることについて、仙田は次のように分析している。

(1) 子どもは遊びの天才だというが、それは豊かな環境（余裕のある気持ちと空間）が前提となる。

(2) 子どもの遊び時間が４～５時間という点は昔と変らないが、その内容が変化している。1955年ごろ外遊びの時間は2.7時間、1975年で1.4時間、最近は1時間を切っている。その理由は、塾やおけいこ事で仲間と一緒に同時に遊べる時間がとれないことやテレビゲームなどが子どもたちにとって魅力的になったことなどがあげられる。子どもたちは、外遊びの意欲を失っている。

(3) 横浜に残っていた「斜面緑地」も開発されてしまったように、子どもたちが遊べる自然はほとんど残されていない。

(4) 1955 年ごろは、自宅の近くにたくさんの遊び空間があり、相互に連携していたが、1975年ごろから空間は小さくなりバラバラにもなった。自然スペースは1／80にまで減少した。

(5) 1970年と1989年を比較すると、児童公園の利用者は半減し、滞在時間も50分から30分へと減少している。

(6) 1989年の調査では、室内遊びの時間は外遊びの4倍になった。今、家の中には食べ物もテレビもファミコンもあり、自分の部屋で自由に過ごせるので、外遊びが減ったという意見もあるが、ミュンヘンの調査では同ような環境にあっても、子どもたちは外遊びをしている。それは空間的にも時間的にも余裕があるからである。

(7) 子どもの遊びの第一の変化は、1960年ごろの高度成長と軌を一にし、都市化の影響で遊び空間の減少、遊び集団の減少となって現れた。第二の変化は、1980年ごろから始まり、遊びの空間は限界まで小さくなって、総合的に遊べる空間を失い、テレビゲームなどによる子どもの自閉化を進行させた。これは量的な変化から質的な変化への転換であり、都市部よりも田舎の子どもの方が大きく変わった。

(8) 1992年の山形の山村の調査では、自然環境的な変化はないにもかかわらず、子ども達は自然を遊び場にする力を失っていた。少子化の影響は田舎の方が大きいため、人口密度は小さく、遊びのノウハウが伝承されなくなったからである。外遊びよりもテレビゲームなどを好み、遊びを伝えるプレーリーダーが必要な時代となった。

以上の仙田の分析は、「三間がない」という現象は、地域の大規模な開発によって自然スペースから道に至るまで、さまざまな子どもの遊び空間が失われたこと、少子化によって一緒に遊べる仲間がいなくなったこと、それぞれのおけいこ事によって、友達と外遊びをする一緒の時間が取れなくなったこと、一人遊びが可能なゲームが開発されたことなどが、お互いに絡み合って生じていることを指摘している。子どもの遊びは本質的に変わってしまったのである。

この分析の元となった仙田の調査は1992年頃までのものであり、対象も小学生を含めた「子ども」であった。従って、これまで幼児を対象としてきた筆者らの調査結果と単純に比較すること

はできないが、昨年度、筆者ら（2006）は、田舎の子どもほど自然を遊び場にする力を失っているという仙田の分析を裏付ける結果を報告した。なぜなら筆者らは、保育園の所在地の違いが子どもの遊びに影響を及ぼしているかどうかを検討したのだが、保育園が外遊びにふさわしい自然環境に恵まれたところにあるからといって、子どもは戸外での運動遊びをするわけではなく、他に熱中している遊びもなく、友達も少なく、全般的に遊びが活発でないという結果を得たからである。

2．「子ども社会」と「親子関係」の変化

発達社会学の立場にある住田（1995）は、現代社会の変化の視点から子どもの生活の変化を下記のように分析している。その前提として、子どもは「子ども社会」と「おとな社会」の２つの社会で生活しているのだが、「子ども社会」は常におとな社会の影響を受けていること、また「子ども社会」形成の条件には、いわゆる「三間」のような客観的条件だけでなく、子ども自身が仲間集団活動に対する欲求を持っているかどうかの主観的条件も考慮に入れる必要があることなどを指摘している。

(1) 社会意識の変容：現代社会は、1960年代に高度経済成長に伴う都市化が進み、それまで「公」を重んじてきた意識は「マイホーム主義」と呼ばれる家族主義的私生活化へ傾斜し、その後は家族のそれぞれが自分の私生活を重視し優先する個人主義的私生活化へと変化した。

(2) 親子関係の変容：家族主義的私生活では、親は子どもの欲求を満たすことによって家族の愛情関係を確認し維持しようとする。親が自己幸福感を得ようとして、子どもの喜びを共有する「子ども中心」の生活は、何でも買い与えるという過保護的、溺愛的状態になりやすく、過剰なほど親和的、友愛的関係を招いている。つまり、子どもは自己中心的な個人主義的私生活を送ることになる。子どもにとっての家庭は、自分の「私」生活にだけ関心を持ち、行動するだけで満足感を与えてくれる居心地のよいところである。その結果、子どもは地域社会から退却し、親離れ子離れできないままの過保護な親子関係が長期間続くことになった。

(3) 仲間関係の変容：子ども社会の私生活化は、自分の私生活を優先する限りにおいてしか仲間関係を結ばないという結果を招いた。つまり、表面的には社交的にみえても、友人・仲間関係は縮小化、希薄化し、一時的、断片的な浅い関係になってしまったのである。さらに遊びの中心となったテレビゲームなどには応答性があって、子どもは擬似的な人間関係を形成し、自己中心的な満足感を得ることとなった。ネット社会の到来は、子どもたちに生きた人間関係の体験を激減させ、仲間関係を喪失させているのである。

(4) 地域社会の変容：都市化によって、人々の地域関係や近隣関係は衰退し、おとな同士の付き合いが希薄になると同時に、近所の子ども同士のふれあいも少なくなってしまった。遊び友達はクラスの友達が中心で、友人の同質化、同年齢化、同性化、少人数化を招いている。これは、「子ども社会」の喪失を意味し、子ども達は自らを社会化させる機会を失ったといえる。もう一つの都市化の影響は、子ども達の遊び場を消失させ、子どもの生活を私生活に埋没せざるをえない状況に追い込み、子どもの遊びは少人数で個人的、非活動的なものへと変わらざるをえなくなったことに現れている。

住田の分析もまた小学生を主な対象としているが、社会の変容により「子ども社会」そのものが存在しなくなり、それに代わって愛情に満ちた強固な親子関係が長期に続くことになったと指摘している。

子ども達が戸外で遊ぶことが少なくなった原因を明らかにするには、「時間・空間・仲間」の「三間がない」という現象面だけなく、社会の変化そのものの変化が関わっていることにも目を向けなければならない。

本研究では、親子関係が形成され、友達との遊びが始まる幼児期に、「時間・空間・仲間」の「三間」がどのような状況にあるのかを解明するための手がかりを得ることを目的とした。そのために、幼稚園児の降園後の遊びを調査し、その結果を過去の研究結果と対比させつつ幼児の遊びの現状分析を行なった。

Ⅱ．調査の概要

１．対象園と対象児

東京都下Ｈ市の住宅街にあるＡ幼稚園（園児 69 名）、園児の年齢は３歳から６歳。

２．調査方法

Ａ幼稚園の協力を得て、園児の親に対し、生活時間や遊びの状況についての質問紙法による調査を実施した。質問紙の内容については、添付資料参照。

３．調査時期

2005 年３月。

４．回収率

有効回答数は 53 名（男児の親 30 名、女児の親 23 名）、回収率は 78.3％であった。

Ⅲ．調査の結果

表１～表３に示したように、回答者の家庭は、核家族が 83％を占め、子どもの人数は１人が 32.7％、２人が 50％、３人が 17.3％、４人以上の子どもがいる家庭は皆無という結果であった。回答者は 92.3％が母親であり、その母親の年齢は 30 歳代が 64.0％、40 歳代が 28.0％、20 歳代が 4.0％という構成であった。住居は、一戸建てと集合住宅が半々の割合であった（表４）。

表１　家族構成　　N(％)

	年　少	年　中	年　長	計
核　家　族	8 (72.7)	13 (92.9)	23 (82.1)	44 (83.0)
三世代家族	3 (27.3)	1 (7.1)	5 (17.9)	9 (17.0)
計	11	14	28	53

表２　子どもの人数　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
1　人	5 (50.0)	4 (28.6)	8 (28.6)	17 (32.7)
2　人	4 (40.0)	9 (64.3)	13 (46.4)	26 (50.0)
3　人	1 (10.0)	1 (7.1)	7 (25.0)	9 (17.3)
計	10	14	28	52

表３　戸外で遊べる友達の有無　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
異年齢の友達あり	3 (27.3)	4 (28.6)	4 (14.8)	11 (21.1)
同年齢の友達あり	4 (36.4)	1 (7.1)	12 (44.4)	17 (32.7)
友　達　な　し	4 (36.4)	9 (64.3)	11 (40.7)	24 (46.2)
計	11	14	27	52

表４　家庭の住居形態　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
一　戸　建　て	4 (36.4)	6 (42.9)	16 (57.1)	26 (49.1)
集合住宅(1～3階)	6 (54.5)	3 (21.4)	7 (25.0)	16 (30.2)
集合住宅(4階以上)	1 (9.1)	5 (35.7)	5 (17.9)	11 (20.7)
計	11	14	28	53

1．習い事との関係（時間）

何らかの習い事をしている園児は39名（73.6%）であり、そのうち17名（43.6%）は、スイミング・体操教室の運動系とピアノ・絵画・英語等の室内系の両方の習い事をしていた。一方、習い事をしていない園児は26.4%であった（表５）。

表５　習い事の有無（複数回答）　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
スイミング・体操教室	2 (18.2)	10(71.4)	20(71.4)	32 (60.4)
ピアノ・絵画・英語等	0	8(57.1)	17(60.7)	25 (47.2)
習　い　事　な　し	9 (81.8)	2(14.3)	3(10.7)	14 (26.4)
対象児数	11	14	28	53

表６には、習い事の有無と平日の降園後に園児がよくする遊びとの関係を示した。この表から分るように、習い事をしているかどうかに関わらず、平日の遊びは「テレビ視聴」が70～80%を占めている。つまり、習い事に時間を取られているかどうかには関係なく、平日はテレビばかり見ているということになる。

表６　習い事の有無と平日に園児がよくする遊び（複数回答）　N(%)

	スイミング・体操教室	ピアノ・絵画・英語等	習い事なし
玩具・ごっこ遊び	6 (19.4)	4 (16.0)	3 (21.4)
絵本	3 (9.7)	2 (8.0)	1 (7.1)
お絵かき・工作	6 (19.4)	6 (24.0)	0
コンピュータ遊び	1 (3.2)	0	0
テレビ視聴	24 (77.4)	21 (84.0)	10 (71.4)
ビデオ視聴	3 (9.7)	2 (8.0)	1 (7.1)
戸外での運動遊び	2 (6.5)	2 (8.0)	2 (14.3)
室内での運動遊び	4 (12.9)	3 (12.0)	1 (7.1)
その他	1 (3.2)	1 (4.0)	1 (7.1)
対象児数	31	25	14

休日の結果は、表７に示した。全般に戸外での運動遊び（以下、戸外遊びと表記）をする園児が増えているが、最も多い遊びは「テレビ視聴」である。特に習い事をしてない園児のうち 64.3% が戸外遊びをしている。この割合は、習い事をしている園児の２倍にあたる。

園児のテレビ視聴時間やテレビ視聴に対する親の意見については表８に示した。テレビを何時間見てもかまわないという回答は皆無であったものの、「見ないほうがよい」は少数派であり、「1 時間」あるいは「2～3 時間」ならよいという回答は 88.6% で大多数を占めていた。テレビ視聴に対しては「できれば見せたくない」「やむをえない」という否定的な回答よりも、「本人が楽しければよい」「親と一緒ならよい」「一人で見ていてくれれば助かる」という肯定派の回答の方が多かったのである。

表７　習い事の有無と休日に園児がよくする遊び（複数回答）　N(%)

	スイミング・体操教室	ピアノ・絵画・英語等	習い事なし
玩具・ごっこ遊び	8 (26.7)	6 (25.0)	1 (7.1)
絵本	0	0	0
お絵かき・工作	3 (10.0)	5 (20.8)	0
コンピュータ遊び	4 (13.3)	1 (4.2)	0
テレビ視聴	15 (50.0)	12 (50.0)	6 (42.9)
ビデオ視聴	4 (13.3)	1 (4.2)	1 (7.1)
戸外での運動遊び	9 (30.0)	9 (37.5)	9 (64.3)
室内での運動遊び	4 (13.3)	3 (12.5)	1 (7.1)
その他	1 (3.3)	1 (4.2)	1 (7.1)
対象児数	30	24	14

表８　適切なテレビ視聴時間とテレビ視聴に対する親の思い（複数回答）　N(%)

	見ないほうがよい	1時間以内ならよい	2～3時間以内ならよい	何時間でもかまわない	計
本人が楽しければよい	1 (20.0)	9 (42.9)	4 (22.2)	0	14 (31.8)
親と一緒ならよい	0	9 (42.9)	5 (27.8)	0	14 (31.8)
一人で見ていてくれれば助かる	3 (60.0)	8 (38.1)	6 (33.3)	0	17 (38.6)
やむをえない	4 (80.0)	7 (33.3)	7 (38.9)	0	18 (40.9)
できれば見せたくない	3 (60.0)	5 (23.8)	7 (38.9)	0	15 (34.1)
特に何とも思わない	0	0	2 (11.1)	0	2 (4.5)
対象者数	5	21	18	0	44

2．戸外遊びができる場所との関係（空間）

戸外遊びに適した場所が自宅近くにあるかどうかを尋ねたところ、「あり」44名（83.0%）「なし」９名（17%）という結果であった。その具体的な場所は「近くの公園」をあげた回答が 38名（86.4%）、川原が１名（2.3%）、不明が５名（11.4%）であり、戸外遊びができる空間（以下、遊び場と表記）はないわけではないことが分る。しかし表９と表10に示したように、「あり」のうち、徒歩で10～14分の場所にあるという回答が７名（15.9%）、15～19分の場所にあるのが２名（4.5%）、20分以上の場所にあるのは１名（2.3%）という結果であり、これらはいずれも平日には使われておらず、休日のみの使用であった。

表９　遊び場までの距離と平日の戸外遊びの時間　N(%)

	1～4分にあり	5～9分にあり	10～14分にあり	15～19分にあり	20分以上にあり	遊び場なし	計
なし	6 (35.3)	7 (43.8)	7 (100)	2 (100)	1 (100)	4 (44.4)	27 (51.9)
1時間未満	8 (47.1)	7 (43.8)	0	0	0	5 (55.6)	20 (38.4)
1 時間台	2 (11.8)	1 (6.3)	0	0	0	0	3 (5.8)
2 時間台	1 (5.9)	1 (6.3)	0	0	0	0	2 (3.8)
対象児数	17	16	7	2	1	9	52

表10　遊び場までの距離と休日の戸外遊びの時間　N(%)

	1～4分にあり	5～9分にあり	10～14分にあり	15～19分にあり	20分以上にあり	遊び場なし	計
なし	4 (23.5)	3 (20.0)	3 (42.9)	0	0	2 (22.2)	12 (23.5)
1時間未満	0	3 (20.0)	0	0	0	1 (11.1)	4 (7.8)
1 時間台	4 (23.5)	3 (20.0)	3 (42.9)	1 (50.0)	1 (100)	3 (33.3)	15 (29.4)
2 時間台	6 (35.3)	4 (26.7)	1 (14.3)	0	0	2 (22.2)	13 (25.5)
3 時間台	3 (17.6)	2 (13.3)	0	1 (50.0)	0	1 (11.1)	7 (13.7)
対象児数	17	15	7	2	1	9	51

改めて表9と表10をみてみると、平日は戸外遊びをしない園児が27名（51.9%）と過半数を占めるものの、「徒歩9分以内に遊び場あり」の33名のうち20名（60.6%）と「遊び場なし」の9名のうち5名（55.6%）は戸外遊びをしている。休日には、戸外遊びをしない園児は12名（23.1%）に半減し、戸外遊びをする園児が40名（76.9%）と約2倍に増え、近くに遊び場がなくても戸外遊びをする園児は9名中7名（77.8%）に増えている。また、「徒歩4分以内に遊び場あり」の場合は、休日の戸外遊びが長時間になる傾向がみられた。さらに、表11と表12に示したように、平日・休日に関わらず、「徒歩4分以内に遊び場あり」の場合は戸外遊びをする園児が多くなり、遊び場が遠くなれば戸外遊びをする園児は減少する。その半面「遊び場なし」の場合に「戸外遊びなし」とはなっていない。つまり、この結果は戸外遊びに必ずしも「近くの公園」を使っているわけではないことを示唆している。

表11　遊び場までの距離と平日に園児がよくする遊び（複数回答）　N(%)

	1～4分にあり	5～9分にあり	10～14分にあり	15～19分にあり	20分以上にあり	遊び場なし
玩具・ごっこ遊び	3 (17.6)	2 (12.5)	1 (14.3)	0	1 (100)	2 (25.0)
絵本	1 (5.9)	2 (12.5)	0	0	1 (100)	0
お絵かき・工作	4 (23.5)	1 (6.3)	3 (42.9)	0	0	0
コンピュータ遊び	1 (5.9)	0	0	0	0	0
テレビ視聴	13 (76.5)	15 (93.8)	5 (71.4)	2 (100)	0	4 (50.0)
ビデオ視聴	0	0	2 (28.6)	0	0	2 (25.0)
戸外遊び	3 (17.6)	2 (12.5)	0	0	0	0
室内運動遊び	3 (17.6)	0	1 (14.3)	0	0	1 (12.5)
その他	1 (5.9)	0	1 (14.3)	0	0	0
対象児数	17	16	7	2	1	8

表12　遊び場までの距離と休日に園児がよくする遊び（複数回答）　N(%)

	1～4分にあり	5～9分にあり	10～14分にあり	15～19分にあり	20分以上にあり	遊び場なし
玩具・ごっこ遊び	3 (18.8)	5 (31.3)	1 (14.3)	0	0	2 (25.0)
絵本	0	0	0	0	0	0
お絵かき・工作	2 (12.5)	1 (6.3)	2 (28.6)	0	0	0
コンピュータ遊び	0	2 (12.5)	0	0	0	2 (25.0)
テレビ視聴	9 (56.3)	10 (62.5)	2 (28.6)	1 (50.0)	0	3 (37.5)
ビデオ視聴	1 (6.3)	2 (12.5)	0	1 (50.0)	0	1 (12.5)
戸外遊び	7 (43.8)	4 (25.0)	2 (28.6)	2 (100)	1 (100)	4 (50.0)
室内運動遊び	2 (12.5)	0	2 (28.6)	0	0	1 (12.5)
その他	1 (6.3)	0	1 (14.3)	0	0	0
対象児数	16	16	7	2	1	8

次に、表13と表14に示したように、戸外遊びのために外に出やすい住宅であるか否かの観点から、住宅を一戸建て、3階までの低層階、4階以上の高層階の3つに分けて、遊びの種類に違いがあるかどうかを検討した。その結果、住む階層による違いはみられなかった。

表13　住居形態と平日に園児がよくする遊び（複数回答）　N(%)

	一戸建て	3階までの集合住宅	4階以上の集合住宅	計
玩具・ごっこ遊び	6 (23.1)	1 (6.3)	2 (20.0)	9 (17.3)
絵本	3 (11.5)	0	1 (10.0)	4 (7.7)
お絵かき・工作	4 (15.4)	1 (6.3)	3 (30.0)	8 (15.4)
コンピュータ遊び	0	1 (6.3)	0	1 (1.9)
テレビ視聴	20 (76.9)	12 (75.0)	8 (80.0)	40 (76.9)
ビデオ視聴	2 (7.7)	1 (6.3)	1 (10.0)	4 (7.7)
戸外遊び	2 (7.7)	3 (18.8)	0	5 (9.6)
室内運動遊び	3 (11.5)	1 (6.3)	1 (10.0)	5 (9.6)
その他	2 (7.7)	0	0	2 (3.8)
対象児数	26	16	10	52

表14　住居形態と休日に園児がよくする遊び（複数回答）　N(%)

	一戸建て	3階までの集合住宅	4階以上の集合住宅	計
玩具・ごっこ遊び	5 (20.0)	3 (18.8)	3 (30.0)	11 (21.6)
絵本	0	0	0	0
お絵かき・工作	3 (12.0)	0	2 (20.0)	5 (9.8)
コンピュータ遊び	3 (12.0)	1 (6.3)	0	4 (7.8)
テレビ視聴	14 (56.0)	6 (37.5)	5 (50.0)	25 (49.0)
ビデオ視聴	2 (8.0)	1 (6.3)	2 (20.0)	5 (9.8)
戸外遊び	10 (40.0)	6 (37.5)	5 (50.0)	21 (41.2)
室内運動遊び	3 (12.0)	1 (6.3)	1 (10.0)	5 (9.8)
その他	2 (8.0)	0	0	2 (3.9)
対象児数	25	16	10	51

3．遊び相手との関係（仲間）

表2で示したように、今回の対象児のうち17名（31.5%）が一人っ子であり、37名（68.5%）には兄弟姉妹がいる。一方、表3に示したとおり、近所に「戸外で一緒に遊べる友達」がいるかどうかについては、全体的には約半数に友達がいるという結果であった。しかし表15と表16に示したように、「戸外で遊べる友達がいる」と回答しても、平日・休日とも友達と一緒に遊んで

いるという結果は得られなかった。そこで、誰とどのような遊びをしているかについて、表 17 と表 18 にまとめた。この結果からも分るように、平日は「テレビ視聴」が主な遊びだが、遊び相手として一番多いのは兄弟姉妹、次に親、3 番目に友達と兄弟姉妹と半々、という順番であった。休日の遊びとして多い「テレビ視聴」と「戸外遊び」の遊び相手の大半は親であり、兄弟姉妹は「テレビ視聴」と「玩具・ごっこ遊び」の相手となっているが、その割合は少ない。つまり、兄弟姉妹だけで遊ぶよりも、全員が親に遊んでもらっているのであり、どの遊びも友達とはほとんど行なっていない。結局、園児の遊び相手は、親や兄弟姉妹が中心ということである。

表15　戸外で遊べる友達の有無と平日に一緒に遊ぶ人　N(%)

	異年齢の友達あり	同年齢の友達あり	戸外遊びの友達なし	計
主に親と遊ぶ	2 (18.2)	5 (29.4)	4 (16.7)	11 (21.2)
親と友達と半々	3 (27.3)	3 (17.6)	1 (4.2)	7 (13.5)
主に友達と遊ぶ	0	0	3 (12.5)	3 (5.8)
友達と兄弟と半々	3 (27.3)	3 (17.6)	3 (12.5)	9 (17.3)
主に兄弟と遊ぶ	3 (27.3)	5 (29.4)	9 (37.5)	17 (32.7)
主に一人遊び	0	1 (5.9)	4 (16.7)	5 (9.6)
対象児数	11	17	24	52

注）兄弟は兄弟姉妹の略

表16　戸外で遊べる友達の有無と休日に一緒に遊ぶ人　N(%)

	異年齢の友達あり	同年齢の友達あり	戸外遊びの友達なし	計
主に親と遊ぶ	7 (63.6)	11 (64.7)	10 (41.7)	28 (53.8)
親と友達と半々	1 (9.0)	3 (17.6)	0	4 (7.7)
主に友達と遊ぶ	0	1 (5.9)	1 (4.2)	2 (3.8)
友達と兄弟と半々	1 (9.0)	0	1 (4.2)	2 (3.8)
主に兄弟と遊ぶ	2 (18.2)	2 (11.8)	11 (45.8)	15 (28.8)
主に一人遊び	0	0	1 (4.2)	1 (1.9)
対象児数	11	17	24	52

注）兄弟は兄弟姉妹の略

表17　平日に園児がよくする遊び（複数回答）と一緒に遊ぶ人　N(%)

	主に親と遊ぶ	親と友達と半々	主に友達と遊ぶ	友達と兄弟と半々	主に兄弟と遊ぶ	主に一人遊び	計
玩具・ごっこ遊び	0	1 (14.3)	1 (25.0)	2 (22.2)	3 (18.8)	2 (40.0)	9 (17.3)
絵　本	1 (9.1)	0	1 (25.0)	0	0	2 (40.0)	4 (7.7)
お絵かき・工作	2 (18.2)	0	2 (50.0)	1 (11.1)	2 (12.5)	1 (20.0)	8 (15.4)
コンピュータ遊び	1 (9.1)	0	0	0	0	0	1 (1.9)
テレビ視聴	9 (81.8)	4 (57.1)	3 (75.0)	8 (88.9)	13 (81.3)	3 (60.0)	40 (76.9)
ビデオ視聴	0	0	0	2 (22.2)	1 (6.3)	1 (10.0)	4 (7.7)
戸外遊び	0	2 (28.6)	1 (25.0)	1 (11.1)	1 (6.3)	0	5 (9.6)
室内運動遊び	1 (9.1)	1 (14.3)	3 (75.0)	0	0	0	5 (9.6)
その他	2 (18.2)	0	0	0	0	0	2 (3.8)
対象児数	11	7	4	9	16	5	52

注）兄弟は兄弟姉妹の略

表18　休日に園児がよくする遊び（複数回答）と一緒に遊ぶ人　N(%)

	主に親と遊ぶ	親と友達と半々	主に友達と遊ぶ	友達と兄弟と半々	主に兄弟と遊ぶ	主に一人遊び	計
玩具・ごっこ遊び	5 (17.9)	0	1 (50.0)	0	4 (30.8)	1 (100)	11 (21.6)
絵　本	0	0	0	0	0	0	0
お絵かき・工作	4 (14.3)	0	0	0	1 (7.7)	0	5 (9.8)
コンピュータ遊び	1 (3.6)	0	0	1 (33.3)	2	0	4 (7.8)
テレビ視聴	15 (53.6)	0	2 (100)	2 (66.7)	5 (38.5)	1 (100)	25 (49.0)
ビデオ視聴	4 (14.3)	0	0	0	1 (7.7)	0	5 (9.8)
戸外遊び	12 (42.9)	3 (75.0)	2 (100)	2 (66.7)	2 (15.4)	0	21 (41.2)
室内運動遊び	0	1 (25.0)	0	2 (66.7)	2 (15.4)	0	5 (9.8)
その他	2 (7.1)	0	0	0	0	0	2 (3.9)
対象児数	28	4	2	3	13	1	51

注）兄弟は兄弟姉妹の略

表19～表21に示したように、親が園児にさせたい遊びは、「戸外遊び」(92.2%)、「絵本」(78.4%)、「お絵かき・工作」(66.7%)であり、親からみた園児の好きな遊びは「玩具・ごっこ遊び」(78.4%)、「戸外遊び」（74.5%）、お絵かき・工作（62.7%）であった。親が望み、園児も好きな「戸外遊び」の遊び相手は、友達ではなく親や兄弟姉妹である。親が園児と遊ぶことについて、親は「楽しい」（50.0%）、「安心である」（32.7%）、と肯定的にとらえている回答が、「近所に友達がいないのでやむをえない」（36.5%）、「他にやるべきこともあり、できれば遊びたくない」（17.3%）というやや否定的な回答よりも多かったのである。

表19　親が園児にさせたい遊び（複数回答）　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
玩具・ごっこ遊び	5 (45.5)	7 (53.8)	12 (44.4)	24 (47.1)
絵　　本	8 (72.7)	9 (69.2)	23 (85.2)	40 (78.4)
お絵かき・工作	6 (54.5)	9 (69.2)	19 (70.4)	34 (66.7)
コンピュータ遊び	0	3 (23.1)	2 (7.4)	5 (9.8)
テレビ視聴	0	2 (15.4)	1 (3.7)	3 (5.9)
ビデオ視聴	0	2 (15.4)	1 (3.7)	3 (5.9)
戸外での運動遊び	11 (100)	11 (84.6)	25 (92.6)	47 (92.2)
室内での運動遊び	3 (27.3)	1 (7.7)	8 (29.6)	12 (23.5)
そ　の　他	2 (18.2)	0	2 (7.4)	4 (7.8)
対象児数	11	13	27	51

表20　親からみて園児が好きな遊び（複数回答）　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
玩具・ごっこ遊び	9 (81.8)	10 (76.9)	21 (77.8)	40 (78.4)
絵　　本	4 (36.4)	7 (53.8)	14 (51.9)	25 (49.0)
お絵かき・工作	4 (36.4)	10 (76.9)	18 (66.7)	32 (62.7)
コンピュータ遊び	1 (9.1)	7 (53.8)	10 (37.0)	18 (35.3)
テレビ視聴	4 (36.4)	7 (53.8)	13 (48.1)	24 (47.1)
ビデオ視聴	4 (36.4)	7 (53.8)	13 (48.1)	24 (47.1)
戸外での運動遊び	10 (90.9)	8 (61.5)	20 (74.1)	38 (74.5)
室内での運動遊び	5 (45.5)	6 (46.2)	15 (55.6)	26 (51.0)
そ　の　他	2 (18.2)	1 (7.7)	3 (11.1)	6 (11.8)
対象児数	11	13	27	51

表21　親が園児と遊ぶことについての思い（複数回答）　N(%)

	年　少	年　中	年　長	計
安　　心	3 (30.0)	3 (21.4)	11 (39.3)	17 (32.7)
友達がいないのでやむをえない	4 (40.0)	6 (42.9)	9 (32.1)	19 (36.5)
楽　し　い	7 (70.0)	4 (28.6)	15 (53.6)	26 (50.0)
用事もあるので遊びたくない	1 (10.0)	4 (28.6)	4 (14.3)	9 (17.3)
そ　の　他	4 (40.0)	3 (21.4)	11 (39.3)	18 (34.6)
対象児数	10	14	28	52

Ⅳ. 考　察

1．習い事との関係（時間）

仙田（1998）は、子どもの遊びの第一次の変化は1960年ごろ、第二次の変化は1980年ごろに始まり、1989年の調査では、室内遊びの時間は外遊びの４倍になったと報告している。

高橋ら（1987）は、1986年に東京を中心とした首都圏の乳幼児の親を対象にアンケートによる面接調査を実施している。その結果、習い事をしている幼稚園児は44.5%、習い事をしていない園児は55.5%であり、両者間に、近くの空き地で遊ぶ時間やテレビを見る時間に相違はなかったこと、習い事の有無は外遊びの時間の長さに関連はなかったことを報告している。さらに、どこでどのくらい遊んでいるかについても調査をしている。それによると、それぞれの遊びに１時間から１時間半の時間を費やしている子どもの割合が最も多く、その遊びの種類と割合は、外遊び13.6%、テレビ視聴33.7%、自宅で友達と室内遊び11.9%、友達の家での遊び12.3%、自宅の室内で一人遊び17.3%であった。仙田の報告のように室内遊びが外遊びの４倍かどうかの比較はできないが、テレビ視聴をはじめとする室内遊びが大半を占めていることは確かである。

それから18年後の今回の調査によると、習い事をしている幼稚園児は73.6%に達し、習い事をしていない園児は26.4%であった。結果の項で述べたように、習い事をしているか否かに関わらず、幼稚園児は、平日の降園後はテレビ視聴を中心とした室内遊びで過ごしている。今回の2005年の調査においては平日室内遊びをする園児は、1989年に仙田のいう外遊びの４倍どころか10倍にも達している。休日になると戸外遊びをする園児は、平日の４倍以上に増えるが、そのうち習い事をしている園児は戸外遊びよりテレビ視聴することの方が多く、習い事をしていない園児は戸外遊びの方がテレビ視聴よりも多かったのである。

この結果だけをみると、習い事をしていない園児の方が習い事をしている園児よりも休日の戸外遊びは多いのだから、休日の習い事が園児の戸外遊びの時間を奪っている可能性があることを示唆しているといえよう。しかし、習い事を何曜日に習っているかについては未調査であるため断定はできないが、筆者ら（2005）の調査によれば、平日の自由時間が少ない保育園に比べて、幼稚園児に習い事をする園児が３～４倍も多いことから推測して、習い事は平日に行なわれている可能性が高い。従って、休日の結果だけで、習い事が園児から戸外遊びの時間を奪っているということはできない。

親が園児にさせたい遊びの第一位は「戸外での運動遊び」であるし、親からみて園児の好きな遊びの第一位も「戸外での運動あそび」である。しかし、遊びの実態は前述のとおりであり、テレビ視聴に対しても親の意識は寛容である。この矛盾をどのように解決しているのか。習い事のうち、スイミングや運動教室などの運動系が60%を占めていることから推測すると、「戸外での運動遊び」の「戸外」の要素はなくても、「運動遊び」の要素を習い事で補っていることが考えられる。

すなわち、日本の経済成長期に始まった子どもの遊びの変化は、戸外遊びに顕著であり、一部の園児が習い事を始めた当初は、習い事の時間が園児の戸外遊びの時間を奪ったという可能性を推定できるが、今や習い事は多くの園児の生活の一部となり、運動系の習い事が戸外遊びに取って代わりつつあるといえよう。

２．戸外遊びができる場所との関係（空間）

結果の項で述べたように、戸外遊びは平日には少なく休日には増えるが、遊び場が４分以内にあれば、戸外遊びをする園児が増え、遊ぶ時間も長くなる傾向がみられる。しかし遊び場が近くにないという場合でも園児は戸外遊びをしている。この結果は、遊び場が４分以内にあるという好条件は園児の戸外遊びを促すが、必ずしも遊び場が近いということだけが戸外遊びを促す要因ではないことを示している。

星ら（1966）は、1965年に公団住宅藤沢団地で、幼児の戸外遊びの調査を行なっている。回答者である母親は、団地には「遊び場がある」「同年齢の子どもが沢山いる」「自然環境に恵まれている」ことなどを団地のよい点としてあげている。その上で、「戸外遊びを充分にさせているか」という問いに対し、３～４歳児67.5%、５～６歳児80.3%が「充分にさせている」と回答していた。また、戸外遊びの時間は平均２時間10分、一日の戸外遊びの回数は平均1.7回という結果であった。反対に、戸外遊びをさせていないのは「付き添いが大変」が主な理由であったことから、母親が戸外遊びに付き添っているのかについても尋ねているが、「戸外遊びに付き添っている」という回答は、３～４歳児母親39.3%、５～６歳児の母親7.6%であった。付き添う理由は、「車などの危険がある」「ひとりで遊べない、母親と離れない」などである。

そこで、付き添いの要不要の分岐点と思われる３歳児に焦点を定め、その住居に出入りしやすい階層にあるかどうかの観点から集計したところ、「戸外遊びを充分にさせている」のは１～２階71%、４～５階53%であり、１～２階の戸外遊び時間は平均２時間6.48分、回数は1.81回、４～５階は１時間58.5分、1.49回、また戸外遊びに付き添うのは、１～２階49%、４～５階63%であった。これらの結果から、高層階に住む３歳児は、戸外遊びの時間と回数が有意に少ないことを明らかにした。つまり、４～５階に住む母親は、１～２階に住む母親に比べると、子どもの戸外遊びに付き添う割合は多かったものの付き添う回数は少なかったことから、居住している階層が３歳児の戸外遊びの時間や回数の多寡に影響を及ぼしていると結論づけたのである。

高橋ら（1976）は、東京都内の14階建て高層団地に住む母親に対し、生活全般の調査を行なっている。その結果によると、高層階に住む子どもはエレベーターを使用しなければ下に降りられないということが活動の範囲を著しく制限し、室内での遊びに閉じ込められる結果となっていること、しかも２階以上に住む子どもは、階下への配慮から騒音を立てることを厳しく注意され室内で走り回ることも禁止されているとのことであった。

星らが調査を行なった1965年は、仙田のいう子どもの遊びの第一次の変化が始まって数年という時期だが、戸外遊びの時間はまだ減少していないものの、自宅から戸外へ物理的に出やすいかどうかが子どもの戸外遊びに影響を及ぼし始めていることが分る。

それから10年後の1975年は、1955年当時からみると子どもの外遊びが2.7時間から1.4時間に半減したと、仙田が指摘した年である。その時期に団地の高層階に住んでいた幼児は、仮に遊び場があったとしても、外へ出るのが困難であったことと、室内でおとなしく遊ぶことが求められたことにより、テレビゲームなどを受け入れる素地ができつつあったと推測される。

1965年から40年を経た今回の調査では、もはや住まいが一戸建てか、低層階か、高層階かの

違いが、子どもの戸外遊びに違いをもたらすことはなくなっている。つまり、単に遊び場が近いか、そこに行きやすいかという物理的な要因だけでは「空間がない」という現象を説明できないということである。今回の調査結果では、遊び場の大半が「近所の公園」であり、仙田のいう重要な原空間（自然スペース、オープンスペース、道）は含まれていなかった。従って、遊び場があったとしても園児が積極的に行こうとする遊び場にはなっていないし、住まいから出やすいかどうかも関係なくなってきているのである。

3．遊び相手との関係（仲間）

前述のように、星ら（1966）の報告では、5～6歳の子どもの戸外遊びに母親が付き添う割合は7.6%であった。当時は、5～6歳になれば、母親の付き添いがなくても戸外遊びは可能であるとみなされ、子ども達だけで遊ぶことが多かったと推測できる。

高橋ら（1987）による1986年の調査によれば、「自宅の室内で大人と遊ぶ時間」は、30分～1時間という回答が最も多く、習い事の項で述べたいろいろな遊び時間に比べて短時間である。星らの調査から20年後にあたるこの時代でもまだ、子どもの主な遊び相手は友達であり、子ども同士で遊ぶことが主流であったと思われる。

しかし、それからさらに20年後の今回、結果の項で述べたように、「戸外で遊べる友達がいる」と回答しても、実際には友達と遊んでいない。住田が指摘するように、単なる顔見知り程度の浅い関係なのであろう。園児の遊び相手は、親や兄弟姉妹が中心である。親は園児と遊ぶことは「楽しい」と答えているように園児との遊びに積極的であり、戸外遊びをさせたいと思う親は、積極的に戸外でも園児の遊び相手になっている可能性が高い。つまり、園児の遊びを中心とする生活は、親と兄弟姉妹の家族の中で完結しており、友達との遊びは日常的なことではなくなっている。

住田（1995）は、親が子どもを囲い込んでしまう状況を「一子豪華主義」と名づけたが、親は、異年齢の子どもと遊ばせることに大して積極的ではない。これまで言われてきたように、多様な友達と遊べないことは、子どもの社会化を遅らせる結果を招くであろう。

V．要　約

戸外遊びを可能にする条件として「時間・空間・仲間」の「三間」があげられるが、それらが幼児の場合にはどのような状況にあるのかを解明することを目的として、東京都下に住む幼稚園児の降園後の遊びについて調査し、分析を行なった。

親は、園児に戸外遊びをさせたいという希望を持ち、近くに遊び場としての公園があるが、平日の園児の主な遊びはテレビ視聴であり、休日も戸外遊びよりもテレビ視聴の方が多い。テレビ視聴に対して、親の意識は寛容である。習い事が戸外遊びの時間を奪っているというより、運動系の習い事が戸外遊びの代わりをしていると推定された。遊び場としての公園は、かつての子どもたちが群れ遊んだ場所にはなりえていない。子どもの自発的な遊びを誘発する遊び場は消滅状

態にあるといってよい。

都市化によって地域社会が機能しなくなり、少子化の影響もあって「子ども社会」は失われしまった。戸外で遊べる友達があると半数は回答しているが、実際には一緒に遊んでいない。降園後や休日の園児の遊び相手は、親と兄弟姉妹であり、親も子どもと遊ぶことを肯定的にとらえている。友達と遊ぶのは、幼稚園という場所に限定されてしまっている。

「三間がない」状況は、今や常態化している。戸外での運動遊びは、運動系の習い事が代役を果たし、降園後の主たる遊びはテレビ視聴である。主な遊び相手は親であり、遊び場は幼稚園の園庭と自宅、親と出かけるテーマパークなども含まれよう。近所づきあいは浅く、親は子どもを囲い込み、遊びも家族だけで行なうことが多いため、子どもは戸外で友達と遊べる状況にはないのが現状である。

引用文献

窪龍子・井狩芳子・野田耕、2005「幼児の心身の健康に関する研究―幼稚園児と保育園児の遊びの調査（1）」『実践女子大学人間社会学部紀要第1集』pp.87～112

窪龍子・井狩芳子・野田耕、2006「幼児の心身の健康に関する研究―幼稚園児と保育園児の遊びの調査（2）」『実践女子大学人間社会学部紀要第2集』pp.149～174

仙田満、1998「対訳　こどものためのあそび空間」市ヶ谷出版　p.44、pp.50～64、p.92

住田正樹、1995「現代社会の変容と子どもの仲間集団」内田伸子・南博文編著『子ども時代を生きる―幼児から児童へ』金子書房　pp.207～240

高橋種昭・野田幸江・中一郎、1976「子どもの性格形成と家庭環境に関する研究―高層密集住宅地域の調査からの考察」『日本総合愛育研究所紀要第12集』pp.183～199

高橋種昭・萩原英敏・水野清子・星美智子・湯川礼子・加藤忠明・須永進・尾木まり、1987「現代児童の生活実態に関する研究」『日本総合愛育研究所紀要第23集』pp.135～172

星美智子・湯川礼子、1966「団地における母子保健の再検討に関する研究―団地生活としつけの意識調査」『日本総合愛育研究所紀要第2集』pp.21～36

付記：1．今回の調査にご協力いただいたH幼稚園の関係者各位と父母の方々に心よりの謝意を表する。

2．本研究の一部は、日本保育学会第60回大会において発表の予定である。

添付資料

子どもの遊びに関する調査

この調査の結果は、研究の目的以外に使用いたしませんので、率直にご回答いただけますよう、お願いいたします。お子さんが二人以上幼稚園に通園されている方は、上のお子さんを対象にお答えください。

お子さんのお名前（カタカナで）と順番	あなたの性別	あなたの年齢	あなたの職業
（第　　子）	男　・　女	満　　歳	あり　・　なし

家族構成（○印をつけてください）	お子さんの人数
1. 親と子　　2. 祖父母、親と子　　3. その他	男児（　　人）　女児（　　人）
住居形態（○印をつけてください） 1. 一戸建て　　2. 集合住宅（住んでいるのは　　階）	

1. お子さんは、園以外ではどのような遊びをどのくらいしていますか。平日と休日に分けて、平均の時間を記入してください。全く遊ばないものには『0』を記入してください。お子さんが好きな遊び、あなたがお子さんにさせたい遊びは、どんな遊びですか。最も好きなもの、させたいものに◎印を一つ、次に好きなもの、させたいものに○印をいくつでも付けてください。

	平日（1日平均）	休日（1日平均）	子が好きな遊びに◎又は○	させたい遊びに◎又は○
(1) おもちゃ・ごっこ遊び	時間　分	時間　分		
(2) 絵本	時間　分	時間　分		
(3) お絵かき・工作	時間　分	時間　分		
(4) コンピュータ遊び	時間　分	時間　分		
(5) テレビ視聴	時間　分	時間　分		
(6) ビデオ視聴	時間　分	時間　分		
(7) 戸外での運動遊び	時間　分	時間　分		
(8) 室内での運動遊び	時間　分	時間　分		
(9) その他（　　）	時間　分	時間　分		

2. お宅の近くに戸外での運動遊びに適した場所はありますか。それはどんな場所ですか。
(1) ある（その場所について、「近所の公園」などと具体的に書いてください。

そこへは徒歩　　分位）

(2) ない

2. 戸外での運動遊びをする場合、幼稚園の友達以外に一緒に遊べる友達は近所にいますか。
(1) いろんな年齢の友達がいる（　　人位）　(2) 大体同じ位の年齢の友達がいる（　　人位）
(3) いない

3. あなたのお子さんは、園以外で誰と遊ぶことが多いですか。平日と休日それぞれについて一つだけ選んで○をつけてください。

平日：(1) 親と遊ぶことが多い　(2) 親と友達と半々　(3) 友達と遊ぶことが多い
(4) 友達ときょうだいと半々　(5) きょうだいと遊ぶことが多い　(6) 一人遊びが多い

休日：(1) 親と遊ぶことが多い　(2) 親と友達と半々　(3) 友達と遊ぶことが多い
(4) 友達ときょうだいと半々　(5) きょうだいと遊ぶことが多い　(6) 一人遊びが多い

4. お子さんが親と遊ぶことについて、あなたはどのように思っていますか。あてはまるところにいくつでも○をつけてください。
(1) 安心である　(2)（近所に友達がいなかったりするので）やむをえない
(3) 楽しい　(4)（他にもやるべきことがあるので、できれば）遊びたくない
(5) その他（　　）

5. お子さんがテレビやビデオを見ることについて、あなたはどのように思っていますか。あてはまるところにいくつでも○をつけてください。
(1) 本人が楽しければよい　(2) 一人で見ていてくれれば助かる　(3) やむをえない
(4) 家族と一緒に見るのならよい (5) できれば見せたくない　(6) 特に何とも思わない

6. お子さんがテレビやビデオを見る時間は、1日にどのくらいが適切だと思いますか。
(1) 見ないほうがよい　(2) 1時間以内ならよい　(3) 2〜3時間以内ならよい
(4) 何時間でもかまわない

7. お宅では、お子さんの目につくところで、コンピュータを活用していますか。
(1) 大いに使っている　(2) 時々使っている　(3) たまに使うことがある
(4)（コンピュータはあるが）めったに使わない　(5) コンピュータはない

8. お子さんがコンピュータ遊びをすることについて、あなたはどのように思っていますか。
(1) 本人が楽しければよい　(2) 一人で遊んでくれれば、助かる　(3) やむをえない
(4) できればさせたくない　(5) 特に何とも思わない

9. お子さんは、習い事をしていますか。
(1) 運動系（スイミングなど）の習い事をしている　(2) 音楽・学習などの習い事をしている
(3) 習い事はしていない

10. あなたがお子さんに対して感情的に接してしまうのは、どんな時ですか。差し支えなければ、具体的に書いてください。

11. お子さんが親に似ているところ、似ていないところは、どんなところですか。差し支えなければ、具体的に書いてください。

似ているところ：

似ていないところ：

ご協力、ありがとうございました。